



「1の1 NONOICHI レンタサイクル」開始にあたり  
試乗する粟市長 [写真中央]

[写真左：自転車をご寄附いただいた(株)山岸建築設計事務所代表取締役 山岸様、右：市観光物産協会長 魚住様]

ごあいさつ

令和元年7月5日

梅雨の最中の6月30日、白山野々市川北消防訓練大会が行われました。本市の第2分団がポンプ車操作で優勝し、7月27日の県大会に出場されることになりました。当日は大雨、強風といった状況でありましたが、これまでの経験や積み上げてきた訓練の成果が勝利をもたらしたものと思います。

県大会でも、たのもしい第2分団のご健闘をお祈りいたします。

6月定例議会では子どもや、若い世代に関するご質問を多くいただきました。

若い子育て世代が多い本市では、保育園に入園できない待機児童を出さないことが大前提です。現在のことでなく、少し先のことを想定することも必要です。市内には公立保育園5園と社会福祉法人が運営する11の民間保育園や認定こども園があり2千人を超えるお子様をお預かりしておりますが、年々保育需要が高まり、現状では心もとないこともあり、民間が運営する保育園、あるいは認定こども園を新たに1園誘致する準備を進めることにいたしました。今年度中に募集をかけ、来年度着工、再来年度春に開園できるような予定を考えております。

一方、保育士の人材確保も大きな問題となっています。正規職員の適正な配置は当然のことながら、充実した保育のために、保育士資格や経験のある方に短時間で働いていただくこともしております。野々市市は子育てしやすいというイメージがありますので、その期待に応えられるように取り組みたいと思います。

また、子どもを遊ばせる場所としての「全天候型子ども広場を野々市に建設しては」とのご質問もいただきました。昨年、加賀市にオープンした児童遊戯施設「かがにこにこパーク」を理想とされたのだと思います。昔話で恐縮ですが、私自身が子どものころ、裏通りは交通量も少なく、自分たちでいろいろな遊び場を探したり、友だちと新しい遊びを発案したりと、大変のんびりした時代と環境でしたが、今はそういう状況にはありません。お子さんがのびのびと遊べる環境は、まずは安心安全がいちばん大切です。

北陸は年間を通して降水量が多いので、何とか工夫をして悪天候のなかでも楽しく遊べる場所の確保ができればいいのですが、本市は場所が限られているので既存の施設を工夫しながら使っていただくことを第一に考えております。今後の施設整備のなかで、そのような対応も考慮に入れることができればと思います。

これまでの歴史や経緯から守ってきたものを踏まえ、さらにこれからどうすれば良くなるかを行政側だけでなく町内会や各種団体、市民の皆さんと共に、とどまることなく考え合わせ、知恵を出していく姿勢こそが「野々市らしさ」の発見ではないかと考えております。